

基調講演『21世紀の行政経営について』

Q．性善説で任せることは、エンパワメントされて効果が出ることは分かるが、政治家、官僚の不祥事が多発している。チェックの必要性についてはどう考えるか。

また、現場へ任せた場合、責任の明確化が必要だと思うが、その点は如何か。

A．第三者がチェックすることは否定しないが、自らがチェックをしない限り、どれだけ第三者が評価して助言しても改革は進まないと考えている。自らがものさしを作って評価することがまず第一である。これをやった後、第三者によるチェックをやるべきである。

特に役所の仕事についてはとても分かりにくい、その中に第三者が入ってもなかなか見えない。内部をきちんとするという意味で、自分達でチェックすることが大切。それを十分やっていると限界を感じて第三者を求めるようになってくる。その時に、第三者が評価に入るのが一番よいと考える。

現場に任せる場合、成果目標を明示して任せることが重要である。漠然とした責任ではなく、できれば数値化された目標を示さないと責任の明確化にならない。

(梅田次郎氏回答要旨)